

【別紙】

一般社団法人 日本ボクシング連盟 令和2年度 第1回業務執行理事会別添資料

2020.5.17

1) 理事の選任方法について

梅下専務理事：前回の2019年2月10日は、理事選挙委員会を立ち上げている。メンバーは、9ブロック長・会長・副会長・専務理事であった。次の理事会で理事の選任を行うがどのような方法が良いかご意見をお願いします。

内田会長：岩井監事と相談し、6週間前を過ぎているので、今回は理事推薦が難しい状況である。都道府県連盟に説明と謝罪をするべきではないか。

梅下専務理事：昨年5月に全国に新理事推薦の依頼という文章が発出されており4名の推薦があり、これを生かすかどうかということになるかと思えます。

菊池副会長：文章は出していたが前過ぎて都道府県の方に説明がつくかどうか。われわれが誤認していたことに対してどのように対応することは必要ではないか。

中島常務理事：この1年間1度も話題に上がっていませんので、理事会で新たに上がってきたから協議すればよいのでは。

鶴木副会長：先日の打ち合わせで話した通り、会長・副会長・専務理事・9ブロック理事と委員会・部会の長で選考してはどうか。

菊池副会長：先ほども申し上げたが、会員の中から推薦したい方がいるかもしれない事と、理事改選が遅れたことは我々の失態でもあるので、報告と謝罪について発出してはどうか。

坂巻副会長：6週間という根拠はどこにあるのか。

菊池副会長：一般社団法人法の中に記載されていることです。

岩井監事：6週間というのは各正会員の権利として理事を推薦する場合の期限であって、理事会の判断として推薦する場合はその限りではない。まだ3週間以上あるので理事会にかけるための募集であれば法令に違反するものではない。

梅下専務理事：菊池副会長は、それを基に文章を作成してください。

梅下専務理事：それでは1号議案に戻って採決を行います。「9ブロック理事・会長・副会長・専務理事・各専門部長・各専門委員長の25名で委員会を構成する」について挙手をお願いします。
※賛成多数で可決した。

梅下専務理事：日程の調整ですが5月24日（日）ではいかがでしょうか。

菊池副会長：このように短期間の中で理事の選任を行うのか。
このままスライドすることも含めて選考会議を行うのか。

内田会長：今回の不手際について説明と謝罪を行い、現状の理事をスライドすることを総会に諮ることはできないか。

菊池副会長：期間が短いので、今回はスライドして新しい定款ができあがってから改選をしてはどうか。

仲間オブザーバー：正会員に広く候補者を募ることは期間的に不可能なのであれば、オリンピックの延期や定款変更など進行中の業務もあるので現状で推移していくことはできないのか。

岩井監事：理事は正会員から自分の権利として推薦する方法と、理事会から推薦する方法がある。6週間前に推薦する権利は正会員が自分で理解して行使することなので理事に責任はない。理事会から理事を推薦するためのプロセスが決定していないことが問題点であると考えている。

仲間オブザーバー：第三者からみて妥当性があり納得いく形で正会員に理解してもらうことが必要であるとガバナンス部では話をした。

- 中村常務理事：期間がないので委員会を設置して話し合うのが妥当ではないか。
- 小山田常務理事：任期が終わり役員改選なので、たとえ同じメンバーになったとしても決定するプロセスは必要ではないか。期間の長短は関係ない。
- 中島常務理事：暫定が続くとよくないので骨子を決めて新しい理事会を形成した方がよい。
- 小坂常務理事：暫定ではなくきちんとした形で決めた方がよい。
- 浅村常務理事：同じく暫定は解消したほうがよい。
- 池端常務理事：私は暫定という認識はありません。現在の理事の任期は定款に則って1年4か月という期間であっただけだと思う。今後、新しい定款ができた時には理事の人数を減らすことになると思う。現行の定款があるうちに誰かを減らすという事が妥当なのかと思う。定款ができて理事の人数や選任方法が決定するまでは現状のままが良いのではないか。
- 坂巻副会長：私も暫定という認識はなかったが監事はどのように考えているのか。
- 岩井監事：2018年9月から2019年2月までは前任者の任期を引き継ぐ補欠という設定なので暫定とも言えるが、その後は、正式な任期である。しかし法的な部分と皆様が考える評価には齟齬があるかもしれない。
- 鶴木副会長：暫定などに拘ることなく6月により良い選考をすればよいのではないか。
- 梅下専務理事：他にご意見がなければ5月24日（日）13時に現状維持という案も踏まえて委員会を開催するというごことをお願いします。

2) その他

- 菊池副会長：委員会の委員長の任期はどうなっているか。オリンピック等を考えると強化委員長は4年の任期が必要だと思われる。
- 岩井監事：専門部・専門委員会組織規則では部長・委員長の任期は2年と定めている。
- 仲間オブザーバー：委員会の任期について理解しているかヒアリングをしたうえで進めた方がよいのではないか。
- 鶴木副会長：会議の進行としてオブザーバーの発言について考えるべきである。
- 小山田常務理事：専務理事から業務執行理事へ、連盟理事より意見書が監事に提出された旨の報告があったが、その後の経過を報告いただきたい。
- 岩井監事：石橋理事から監事2名に「業務執行に関する意見の申立書」が提出された。3つのことが記載されており1つはオリンピックの選手選考について、2つめがコーチ設置事業、主に菊池副会長のアシスタントナショナルコーチの選任について、3つめが理事会の運営について。本来は理事間で意見交換すればよいことなので、監事としては法令に違反しているか、または不正があるかという観点で対応した。具体的には石橋理事と連絡を取って問題について把握した。そのうえで執行部に事実関係を確認し回答をお願いした。結論から言えば法令に反しているという事実はないが運用のあり方の問題であると思えるので理事間で議論してもらうことだと考える。
- 中島常務理事：私が提出した意見書に対する返答はないのか。
- 岩井監事：私は仲裁役ではないので。意見書の提出先が理事宛てだったので監事宛ての意見書であれば回答する。
- 中島常務理事：法的に問題がなくても理事会としてはどうなのか。組織のガバナンスの問題はないのか。
- 岩井監事：機関決定の権限（職務権限規程）が明確でないことがすべての起因となっている。個別具体的な部分について定まっていないのでその点は問題ではあるが、そのことが直ちに問題となるということはない。今後話し合っていけばいい。
- 鶴木副会長：中島常務理事の文章は、私と理事宛てだったが内容を勘案して、私の判断として会長と専務理事のみに提出している。全理事にも公開するべきか。
- 菊池副会長：以前からコーチ設置事業については議論されたことがない。しかし理事会で

諮って決めるべきだったとは考えている。もともと予定はなかったが会長から提案をもらって JOC に確認したところ資格について問題がなかった。家庭的な事情もあり正直ありがたかった。

鶴木副会長：私が言いたいのは中島常務理事から預かった文章を全理事に公開すべきかを問うている。その回答をお願いしたい。

菊池副会長：その内容は私に関する事なのか。公開してもらっても問題はないと思う。

中島常務理事：この件は、理事会に諮る案件であったと思う。この業務執行理事会ではなく決定のプロセスも含め次の理事会で了解を得てほしい。

菊池副会長：私も賛成である。昨年も思っていたが申し訳ないが失念していた。問題提起をいただいたので次年度からは正していきたい。

内田会長：前政権時ではまったく問題提起されていなかったこともあり私の一存で決めてしまった。次年度からはしっかりと理事会に諮って決定していきたい。

小山田常務理事：2月の理事会では「来年度のコーチ設置事業」の報告があったが菊池事務局長の名前はなかった。

菊池事務局長：先ほども申し上げたが後から会長から話があり追加した。

鶴木副会長：名誉ある役職なので JOC に提出した申請書を皆さんに公表してもらいたい。疑念がある場合は JOC に照合したいと思う。

内田会長：この件はいままでずっと理事会で話し合われなかった件である。中島常務理事は 2015 年から理事だったが、なぜ前政権では追求しなかったのか。

中島常務理事：前政権は、「ものが言えない」「中身が見えない」という問題があり私たちも責任を感じて辞任した。現政権は透明な理事会を作っていくということだったので、同じようなことをしない期待をしていた。

内田会長：なぜ事前に私にアドバイスをくれなかったのか。去年、樋山氏を起用した時もそのような話はなかった。

中島常務理事：それも会長の恩情で起用したと聞いているがそんなに簡単に内部だけで選任ができるものなのか。昨年4月にタイで行われたアジア選手権の際に本強化委員長からもマズいのではないかと指摘されているはずである。

内田会長：樋山氏は東京に来る機会が多かったのでそれを充てるために選任した。今回の菊池副会長は、勤務の実態がないのに学校から給料をもらっていること、実際の業務内容がアシスタントコーチに適合していることから JOC とも相談し決めたことである。問題提起をすることは良いことだが去年のうちに指摘してくれればこのような事にはならなかった。コーチの誰もが理事会の承認を受けていないので1人を辞めさせるなら全員が辞めなければいけない。

中村常務理事：JOC との関係からすると妥当だと思う。理事会での承認をしなかったことは反省して次年度から改善していけばいいのではないか。

内田会長：私が菊池副会長を推薦した理由は、高校から給料をもらうのはおかしいという事と実際に行っている業務がこれに値するという2点である。金額は高いかもしれないが宮崎県との2重の生活をお願いしている。私が会長である以上、菊池副会長は必要な人材であるので私が決めた。しかし来年度以降はしっかりと理事会で話し合っ決めてほしいと思う。今回はみなさんに不快な思いをさせて申し訳なく思っている。

鶴木副会長：論点がずれている。オリンピック強化に向けての重要な役割なので JOC が本当に認めているのか申請書を照合して確認させてもらいたい。

菊池副会長：申請書は開示するが、直接 JOC の強化本部長（笠原氏）に問い合わせ下さい。私の役割がアシスタントコーチに該当すると言われている。確認してください。

小山田常務理事：決め方の問題だと思う。2月の報告事項から人選を変えて提出していることに問題がある。なぜ事前に報告をしてくれなかったのか。

中島常務理事：菊池副会長が石橋理事と直接話をしたときに、「俺の生活をどうしてくれるんだ」

とういような高圧的な態度でのパワハラはなかったか。

菊池副会長：そのような事実はありません。

梅下専務理事：目的の議題は終了しているのでここで議事は終了し、この件は今後の懸案事項としたい。

以上